

第32歩

高松観光再生の年に

澄みきった東の空に、月が地球の影に入る部分月食が見られた去る11月19日の夜。幻想的な雰囲気の中で、令和3年度高松市観光大使研修会が、リニューアルされた「れいがん茶屋」を拠点に、屋島山上と各観光大使の自宅などをインターネット回線で繋いで行われました。

高松市観光大使とは、本市の観光PRの制度として、国内外で活躍されている本市とゆかりのある方々に、観光や物産など、本市の魅力を紹介していただくとの趣旨で設けられているものです。現在約160名の方に大使を委嘱していますが、その方々に高松の観光の現状等を認識していただき、大使同士の親睦を深める目的で研修会を開催してきました。それが昨年度はコロナ禍の影響で中止。今年度も開催が危ぶまれましたが、初の試みとしてWEB会議形式で実施したものです。

コロナ禍で本市の観光も大きな痛手を被りました。特に外国人観光客の激減は深刻です。令和元年に外国人の延べ宿泊者数約77万人と多くのインバウンド観光客で賑わった香川県において、令和2年はその1割程度となる厳しい状況となっています。国内観光客を合わせても宿泊者数が前年の半分に減少しました。

令和4年という新しい年が始まります。コロナ禍の状況は心配ですが、明けない夜はない。色々と工夫をしながら高松市の観光再生に向けてのエポック・メイキングな一年になればと願っています。

3月には5回目となる高松国際ピアノコンクールが開催されます。そして同じく5回目となる瀬戸内国際芸術祭2022が春、夏、秋の三つの会期で105日間開かれます。四国四県を舞台とした全国高等学校総合体育大会（インターハイ）もあり、高松市では、バスケットボールやフェンシングなど4競技が開催される予定です。屋島では、四国村が春にリニューアルされ、夏には屋島山上交流拠点施設も供用を開始して、世界に向けて文化観光のアピールを行います。

研修会の夜に月食が見られた屋島の東の空に、元旦には高松観光再生の年の幕開けにふさわしい、輝かしい初日が昇ってくることを期待しています。

